

2023年度 第2四半期 決算説明会 質疑応答（要旨）

Q1) 航空事業における第2四半期(7~9月)の実績について、売上高・費用別に計画との主な差異を教えてください。

- A1) ・ 第2四半期は夏場の需要を高単価で取り込み旅客事業が増収を牽引したほか、貨物事業においては生産量調整によって費用の抑制を図りました。この結果、営業利益は計画から+280億円上回りました。
- ・ 売上高・営業費用の主な計画差異は、以下の通りです。
[計画差異の内訳(航空事業、第1四半期(7~9月))]
売 上 高 : +275億円
(国際旅客+370億円、国内旅客▲20億円、Peach+55億円、国際貨物郵便▲155億円など)
 - 営業費用 : ▲5億円
(燃油費+15億円、貨物便の生産量抑制に伴う費用減▲15億円など)

Q2) 旅客事業における今期の高単価・イールドの背景、またその持続性についてどのように捉えていますか。

A2) ① ANA 国際旅客

[今期の実績]

- ・ 第2四半期は需給が逼迫している米国線を中心に日本発需要を効果的に取り込んだ結果、2019年同期比約1.5倍の高いイールド水準となり、コロナ前からの上昇率は第1四半期と比較しても増加しています。

[今後の見通し]

- ・ 10月の冬ダイヤ以降各社が供給量を増やしていくため需給バランスは徐々に緩和と想定していますが、足元の需要動向を踏まえると、高水準のイールドは暫くの間、継続すると見通しています。

② ANA 国内旅客

[今期の実績]

- ・ 第2四半期の単価は、6月以降の搭乗分を対象とした一部運賃の値上げ効果等により、コロナ前と比べて約6%上昇しています。

[今後の見通し]

- ・ 需要喚起を目的とした一律運賃でのセールを実施する予定はなく、引き続き単価向上に努めていきます。

Q3) 通期業績予想を据え置いた背景を教えてください。

- A3) ・ 上期の業績は好調に推移したものの、下期は原油市況の変動、グループ社員のエンゲージメント向上施策や航空機エンジンの整備費用などにより、400 億円収支が悪化すると想定しているため、現時点で業績予想の変更はしていません。
- ・ 最も収支影響が大きいのは燃油費です。原油市況の上昇に伴い、燃油費の増加が燃油サーチャージ収入の増加に先行する期ズレの影響を見通しに織り込んでいます。
 - ・ 下期の収支計画において、更なるダウンサイドリスクとしては貨物需要の下振れ、アップサイドリスクとしては国際旅客のイールドが高水準で推移している点が挙げられます。

Q4) Pratt&Whitney 社製 PW1100G-JM エンジンの点検はどのくらいの期間がかかると想定していますか。

- A4) ・ A320 並びに A321neo に搭載されている P&W 社製のエンジンの点検作業を開始することとなりました。
- ・ エンジンを機体から取り卸した後に深度の深い点検を行うことや、世界的にも整備工場が逼迫しているため、一定程度の期間が必要とみられますが、点検期間の短縮に向けてメーカーと協議する予定です。

Q5) この段階で復配を発表した理由について教えてください。

- A5) ・ 足元での業績は堅調であり、財務基盤の回復や従業員への還元も進んでおります。また通期業績目標の達成確度が高まったことから、5 期ぶりの復配を判断しました。
- ・ 今年度は 1 株当たり 30 円の配当を予定しています。コロナ前に掲げていた配当性向 30%には届いていませんが、今後も安定的に継続して配当を続けたいという思いから今回の金額としました。コロナ禍で多大なるサポートをいただきました株主の皆様には、あらためて感謝申し上げます。

以上